

# 汚染水放出即時停止を

## 日本科学者会議が声明

日本科学者会議幹事  
 会は26日、東京電力福  
 島第1原発の汚染水  
 (アルプス処理水)の  
 海洋放出の即時中止  
 と、汚染水の抜本的削  
 減対策を求める声明を  
 公表しました。東電は  
 同日、3回目の海洋放  
 出を11月2日から始め  
 ると発表しています。

大量のトリチウムと、  
 その他ストロンチウ  
 ム、プルトニウムなど  
 多数の放射性核種が含  
 まれ、「海水で希釈して  
 も濃度が低下するだけ  
 で環境を汚染する放射  
 性物質の総量は変わら  
 ない」と強調していま  
 す。現段階で汚染水が  
 発生しなくなる時期は  
 全く分からず、汚染水

の放出期間も放射性物  
 質の核種ごとの総量も  
 見積もれないと指摘。  
 政府と東電による海洋  
 放出は「50年以上前の  
 公害多発時代に希釈放  
 出方式が否定され、総  
 量規制方式に変えられ  
 た教訓を捨て去るもの  
 」と述べています。

放出後に政府が、海  
 水や漁獲対象の魚介類  
 のみ少数のサンプルを  
 採取し、トリチウムな  
 どが検出下限値未満で  
 あると宣伝しているこ  
 とを批判。国内外から  
 反対や懸念の声が出る  
 のは当然だとしていま  
 す。

声明は、公聴会や原  
 子力市民委員会などで  
 提案されてきた大型タ  
 ンク長期保管やモルタ  
 ル固化などの方法に加  
 え、原子炉建屋への地  
 下水流入を抜本的に削  
 減する「広域遮水壁」  
 の必要性などを強調し  
 ています。